岐阜大学のとりくみ　2008.6▶9

6月
学長と成績優秀者表彰
学生との懇談

岐阜大学では、学業成績優秀者ならびに研究活動、社会貢献活動および課外活動において表彰するにふさわしい行為があったと認められる者を表彰しています。平成20年度の創立記念日（6月1日）には学部学生13人が表彰され、6月4日に森学長との懇談会が開かれました。

学生のみなさんは、森学長および古田副学長からの「入学の動機」「授業編成および内容」「学生食堂の状況」「学内の情報化対策」などに関する問いかけに対し、少し緊張しながらも率直な意見や要望を述べました。

懇談の最後には森学長から次のメッセージがあり、有意義な懇談会を終えました。「学生のみなさんから忌憚のない意見や感想をいただくことは、本学が改善・充実すべき点を把握するために必要なことです。私たちは最善の方法により、学生のみなさんの期待に応えなくてはなりません。本学を卒業したことを誇りに思い、いつまでも母校に愛着を持っていただける大学であり続けなければと強く感じています」。

7月
自然災害から地域を守る
「社会基盤メンテナンスエキスパート」

岐阜大学と岐阜県は、文部科学省の平成20年度科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」に採択されました。

岐阜県は、海抜0メートル低地帯から標高3,000メートルを超える山岳地帯を有しています。そのような地形・地質条件に加え、道路、河川および橋梁などの社会資本設備の老朽化により自然災害が多発しています。それにもかかわらず、国の公共事業費が縮小され、それら施設の整備・維持管理を支える県内建設業界の疲弊が大きな問題となっており、その影響で県内の建設業界技術者も減少せざるを得ない実情にあります。

そこで岐阜大学では、文部科学省「地域再生人材創出拠点の形成」プログラムを受け、受・発注者双方に対し、総合的な技術力を有する技術者を育成することで地域の活性化を実現する、「社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成」プログラムを立ち上げました。

まず、岐阜大学に社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成ユニットを設置しました。養成ユニットでは、県や県内建設業界の技術者が20日間程度の短期集中講座により、アセットマネジメントに関する基礎科目（座学）、社会基盤実務（演習）および点検・施行・維持管理実務（実習）を履修した、「総合的な高い技術を身につけた人材」養成を行います。受講後、ME資格認定試験を受験し合格することで、「社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）」の認定を受け、県内建設業界の牽引力として活躍します。初年度は15人、中間時には50人、最終の5年目には100人のME輩出をめざします。

社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成ユニット運営のために、岐阜大学に社会資本アセットマネジメント技術研究センターを設立しました。センターには、「社会基盤診断技術研究室」、「社会基盤補修技術研究室」および「総合リスクマネジメント技術研究室」が置かれ、本学の研究者をはじめ、全国の専門技術者が携わり、最新の社会基盤メンテナンスの技術開発と研究を行います。

総合的な高い技術力を有する技術者の活躍によって、県内建設業界と地域経済が活性化し、岐阜県全体の活力が高まるように、研究を還元する取り組みを展開しています。

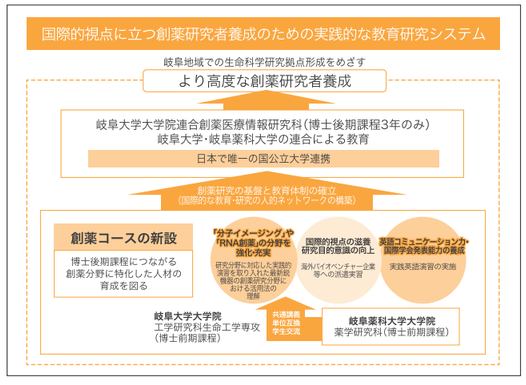
8月
岐阜地域における
生命科学研究拠点の形成めざす

岐阜大学と岐阜薬科大学は、文部科学省の平成20年度「戦略的大学連携支援事業」に採択されました。

平成19年度に岐阜大学と岐阜薬科大学との間で設置した大学院連合創薬医療情報研究科は、高度な専門性と先見性、柔軟な発想を有し、21世紀の医療、医学、生命科学を担う最先端の領域で活躍できる人材の育成を目的とします。本研究科は、「創薬」および広義の「医療情報」にかかわる独創的・先進的研究拠点の形成、ならびに地域再生への拠点の形成をめざしています。そこでは新たな医薬品の開発・研究、安全で有効な薬物治療法の開発・研究、医薬品の適切な評価方法の開発・研究、臨床応用技術の開発・研究を実施します。著しく進歩する生命科学分野を修学し、先端医療に対応できる人材育成をより高度に展開していくためには、連合大学院を支える博士前期課程（修士課程）の段階より、国際的視点から学際領域の学問に取り組む必要があると考えました。そこで、修士課程の単位互換制度や共通の授業を導入することで、連合創薬医療情報研究科の教育研究を実質化することにしました。

具体的には、岐阜大学大学院工学研究科生命工学専攻の一部にコース制を設け、岐阜薬科大学大学院薬学研究科博士前期課程が連携し、創薬科学の最先端講義と最新鋭機器を用いた演習を実施するとともに、高い英語コミュニケーション力を発揮するための訓練を行います。そして海外の創薬関連研究所等へ派遣するなど、国際的視野を備えた、優れた学生を継続的に養成することにしました。

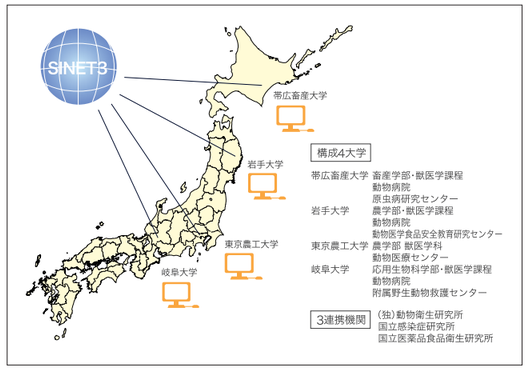
今回採択された取り組みは, 大学間連携のモデルを形成し、生命科学、特に創薬科学分野の教育・研究を進展させ、岐阜地域における生命科学研究拠点の形成に寄与することとなるでしょう。



9月
国際社会で活躍できる
獣医学研究者の育成をめざす

岐阜大学は、文部科学省の平成20年度「大学院教育改革支援プログラム」に「グローバル化に向けた実践獣医学教育の推進」で応募し、採択されました。このプログラムは、社会のさまざまな分野で幅広く活躍する高度な人材を育成する大学院博士課程・修士課程を対象として、優れた組織的・体系的な教育取組に対して重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化を推進することを目的としています。

今回採択された取り組みでは、本学大学院連合獣医学研究科の4つの構成大学（岐阜大学・帯広畜産大学・岩手大学・東京農工大学）および附属研究センターと、3つの連携機関（国立感染症研究所・国立医薬品食品衛生研究所・独立行政法人動物衛生研究所）により、グローバル化の時代に活躍できる人材の養成をめざして獣医学特別実験I・IIと獣医学特別講義I・IIの科目を改変し、実践的な演習を行います。例えば、獣医学特別実験IIで行われる海外フィールド実習では、食の安全性について海外の現状の把握と研究の実状を体験します。海外短期集中コースでは、欧米の大学で先進的な獣医臨床教育を体験します。

この取り組みにより、次の研究者養成をめざします。

- **危機管理能力と動物福祉感覚にたけた産業動物研究者**
- **食の安全性に関して深い知見と探求力を有する国際対応型の獣医公衆衛生研究者**
- **先進的獣医臨床技能を有し、リサーチマインドを持つ高度臨床獣医研究者**